

キャラクター名
立入禁止

プレイヤー名

シンドローム	バロール オルクス		ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	無し
	オプション		年齢	10代後半→20代前半	性別	男性
覚醒	生誕	衝動	殺戮	初期侵食率	35	%
出自	疎まれた子	経験	一匹狼	邂逅	いいひと	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	0	0	1			1	行動値	11
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	11
精神	3	1	3			7	戦闘移動	16
社会	3	0	0			3	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
青紅葉襲	P 純愛	N		
両親	P	N 不信感		
豊山町民	P	N 憎悪		
小鞠美鷹	P 有為	N		
猫神聡	P 連帯感	N		
ヤーさん	P 信頼	N		
ロボトミー	P	N 侮蔑		

最大財産P: 8 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト	3	2	ma	-	-	-	-	
効果:	cr -lv							
絶対の空間	1	2	mi	arnd	slf	ato	-	
効果:	orc dce +lv, btwn ma process							
黒の鉄槌	3	1	ma	sigt	-	bt	-	
効果:	sht +[lv*2+2], 同engge不可							
大地の牙	1	1	ma	sigt	-	bt	-	
効果:	sht +[lv+2], dodg dce -1, 同engge不可							
大地の加護	2	2	ma	-	-	bt	-	
効果:	atk +[lv*2]							
覇皇幻魔眼	3	5	ma	-	sngl	bt	80↑	
効果:	atk:lv*5, 同engge不可, 1/scene only							
妖精の手	3	4	auto	sigt	sngl	auto	-	
効果:	出目を1つだけ10に変更, lv/scenario							
妖精の輪	1	4	auto	arnd	slf	auto	limit:妖精の手	
効果:	追加でもう一度《妖精の手》使用可能, 1/judge, lv/scenario							
時間凍結	1	5	ini	arnd	slf	auto	80↑	
効果:	加速する刻(hp -20, 1/scenario)							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

コードネーム: 立入禁止《シュヴァルツシルト》。
本名は不明だが、かといって特段パワーのある名前というわけでもなく、至って普通の名前。
愛知県西春日井郡豊山町出身の日本人。

両親共に神城重工の技師。少し裕福だが庶民の域は出ない程度の子供の生まれ。
生まれつきのオーヴァードであり、ブラックホールを生み出すという特に破壊的な能力のため、家族を含むあらゆる他者から拒絶されて育った。
このため愛というものをおおよそ知らず、心を閉ざすようになる。
その傾向は同族のパケモン揃いであるUGNに籍を置くようになってからも変わらなかった。
立入禁止というコードネームは、その「立ち入り禁止エリア」のように他者を寄せ付けられない性格と、ブラックホールにまつわる物理用語であるシュヴァルツシルト半径とを掛けて保護者役の大人が名付けたもの。ちなみにその名付け親はスイス人だった。

言葉遣いは総じて粗暴。一応それなりの教育は受けているはずだが敬語を使わない。
昔はさらに酷かったようで、今は多少なりともマシになっているが、それでも粗暴。
頭の回転は速い。

実家の近所に空港があったため、飛行機が好き。

【シナリオロイス: 青紅葉襲との関係】
青紅葉の方が多少年上。少なくとも立入禁止の方から明確な恋愛感情を抱いていないが、漠然と大切な存在だとは思っている。
周囲からはだいたい姉弟のように見えるが、見ようによってはお姉さん彼女とツンデレ年下彼氏に見えるかもしれない。
数年前、地元のUGN系研究施設で持て余された立入禁止がヨモツに押し付けられたとき、彼の態度や能力にも関わらず積極的に交流を保とうとしたのが彼女であった。